

1. 水の流れツアー

平成 23 年 11 月 24 日（木）に、水道局と建設局の共催による「水の流れツアー」（秋）を実施しました。このツアーは、水陸両用バスを利用して大川と上下水道の各施設を見学する事で、市民の方々に「水」に対する関心と理解を深めて頂くものです。大川での水陸両用バスクルーズでは、橋梁課の職員が乗船し、橋の形や歴史に関する話をご説明しました。



▲ ツアーの様子



▲ 水陸両用バス

2. 「東京・横浜・大阪の橋 合同パネル展」

歴史的な橋や特殊な橋を多く管理し、様々な共通課題を抱える東京都、横浜市、大阪市が、市民の方々に橋の魅力を再認識してもらい、愛着を持って頂く事などを目的に、「東京・横浜・大阪の橋 合同パネル展」を実施しました。これまでに紹介した横浜市（瓦版 第 8 号）や大阪市（瓦版 第 9 号）での開催に引き続き、本号では東京都での開催の様子を紹介します。

平成 23 年 11 月 21 日（月）～24 日（木）に、新宿駅西口広場イベントコーナーで、「東京・横浜・大阪の橋 合同パネル展」を展示しました。来場者を対象に実施したアンケートでは、全ての方から「非常に興味がわいた。」「興味がわいた。」と回答頂きました。また、「大阪出身なので大阪の橋がなつかしかった。」「パネルを見て東京でも大阪のようにライトアップをすると良いと思いました。」といったご意見も頂きました。なお、展示したパネルデータは、大阪市のホームページ（<http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000164655.html>）より、ダウンロード可能となっておりますので、是非ご利用下さい。



▲ パネル展の様子

3. ライトアップワークショップ

平成 21 年度の「水都大阪 2009」開催以降、橋梁や河川構造物、民間建築物などを対象とした様々なライトアップ事業が実施されています。橋梁課では、ライトアップをきっかけとした、まちの魅力の再発見、魅力ある都市空間の構築、地域力の強化を目指し、梅檀木橋と高麗橋を対象に、地域の皆様と共に考える場であるワークショップを平成 23 年度に実施しました。

第 1 回目の平成 23 年 11 月 9 日（水）には、梅檀木橋・高麗橋及びその他の橋のライトアップの現状を把握するため、船による視察を行いました。第 2 回の 12 月 7 日（水）には、専門家の意見を取り入れながら、梅檀木橋・高麗橋のライトアップのデザイン方針について討議しました。

以上の経緯を踏まえて、最終的にライトアップデザインコンセプトを決定し、3 月 21 日（水）～30 日（金）の期間、中央区役所 1 階ロビーにて、結果報告パネル展を実施しました。

スケジュール

9/21 幹事会

11/9 第1回 ワークショップ ・中之島近郊・現場チェック

12/7 第2回 ワークショップ ・ライトアップの方向性を討議

2/15 幹事会

・ワークショップの取りまとめ
・公募に関するデザイン方針の確認

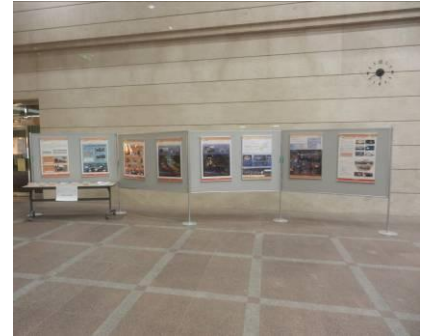
3/21～30 結果報告パネル展の開催



▲ 第1回ワークショップの様子



▲ 第2回ワークショップの様子



▲ 結果報告パネル展の様子

○梅檀木橋のライトアップデザインコンセプト

中央公会堂へいざなうレトロモダンな灯り『梅檀木橋』

中之島の景観にかかせない中央公会堂や三休橋筋のガス灯の光との関連性を重視すると共に、中央公会堂と三休橋筋をつなぐラインを際立たせ、周辺エリアのレトロモダンな風情を演出。



▲ 梅檀木橋のライトアップイメージ

○高麗橋のライトアップデザインコンセプト

夜の水面に歴史を照らし出す灯り『高麗橋』

橋屋敷を模した親柱や擬宝珠をはじめとする橋梁上部の厳格な姿と、橋梁下部の優美なアーチ形状を際立たせ、古くより東横堀に架かり親しまれてきた石橋の歴史性を表現。



▲ 高麗橋のライトアップイメージ

※ライトアップの検討にあたっては、省エネ対策等も考慮して行いました。

4. 橋梁技術の継承に向けた取り組み

◇大阪市橋梁保全更新計画検討会

平成 19 年度から、「大阪市橋梁保全更新計画検討会 {委員長：渡邊英一（京都大学名誉教授）、委員：古田均（関西大学教授）、田中みさ子（大阪産業大学准教授）}」では、本市の管理する橋を良好な状態で将来に引き継ぐために、維持管理のあり方について検討してきました。

平成 23 年度は最終年度として、平成 23 年 12 月 20 日（火）（第 10 回）と平成 24 年 3 月 14 日（水）（第 11 回最終）の 2 回開催し、この 5 年間の維持管理に関する技術的な検討や人材育成、広報強化など幅広く検討をとりまとめました。

今後、検討会で得られた知見を維持管理に活かしていくと共に、引き続き維持管理のあり方について検討を深めていきます。



▲ 第 11 回検討会の様子（大阪市公館）

◇政令市試行研修

平成 22 年度に引き続き、大阪市・神戸市・堺市・京都市の連携による政令市試行研修を、平成 24 年 2 月 2 日（木）に実施しました。本研修では、東日本大震災の教訓を踏まえて、災害査定や耐震設計に関する研修などを実施しました。

この研修は、各政令市が得意とする分野の講義を受ける事が出来る点、普段経験する事が出来ない業務内容に関する知識が広がる点、各自治体間の関わりを持つ事が出来る点で、有意義な内容となりました。



▲ 研修の様子

◇なにわ八百八橋 先輩トークリレー

大阪市では、これまで橋梁の建設に携わった職員を講師として招き、次の世代を担う若手職員に向けて、橋梁の設計や維持管理に係る留意点等を継承していくための取り組みを行っています。今年度は、平成 24 年 3 月 23 日（金）に講義を実施しました。橋梁に関する話に限らず、仕事をしていく上での考え方や身に付けるべきセンスなどの講義が行われ、参加者を対象に実施したアンケートでは、「技術者以前の社会人としてあるべき姿などの話もあり、とても参考になった。」「設計者としての考え方を教えて頂けた。今後、業務にいかしていきたい。」といった意見がありました。



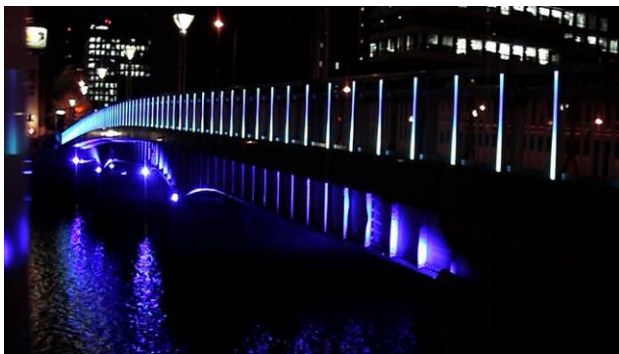
▲ 講義の様子

5. 光のルネサンス

平成 23 年 12 月 14 日（水）～25 日（日）の期間に開催された「OSAKA 光のルネサンス 2011」に併せ、中之島に架かる玉江橋、堂島大橋のライトアップが開始されました。

玉江橋では、『玉とホテル「世界に広がる水都大阪とおもてなしの和の灯り」』をコンセプトに、玉江橋由来である玉の放つ光の道とほたるまちのホテルをイメージし、水都大阪の力強さと優しさの融合を演出したライトアップが実施されました。

堂島大橋では、『中之島 光の ARCH GATE』をコンセプトに、「中之島の西ゲート」として堂島大橋の優美な鉄骨シルエットの特徴を活かしたライトアップが実施されました。



▲ 玉江橋のライトアップ



▲ 堂島大橋のライトアップ

6. 中央区まち歩き&クルージングツアー

中央区役所主催により、平成 24 年 3 月 20 日（火）に、市内在住の外国人の方を対象とした「まち歩き&クルージングツアー」が開催されました。見学コースは、大阪城港船着場～（第二寝屋川）～（寝屋川）～（大川）～（土佐堀川）～（東横堀川）～（道頓堀川）～太左衛門橋船着場でした。

クルージングの際には、橋梁課の職員がコース上の橋に関する歴史や構造などについて説明しました。



▲ ツアーの様子

7. 海老江下水処理場 パネル展

建設局では下水処理場を一般公開し、下水道事業の PR を行うと共に、道路事業の PR についても積極的に実施しています。平成 24 年 3 月 24 日（土）の海老江下水処理場の一般公開では、「大阪の橋パネル展」を展示しました。当日は、パネルの展示に加えて、パンフレットの配布なども行われました。



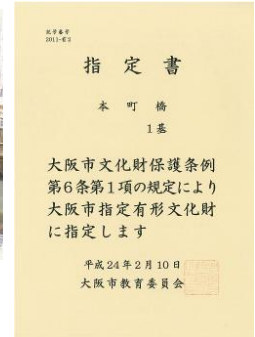
▲ パネル展の様子

8. 本町橋の大阪市指定文化財への指定

本町橋が、平成 24 年 2 月 10 日に大阪市指定文化財に指定されました。指定文化財は、本市の歴史や文化を考える上で重要なものを広く市民に普及するとともに、将来にわたって保存と活用を図るために制定されているものです。本町橋は、市内に現存する橋で最古のもので、橋脚に施されたエンタシスの石柱を模した飾りや上部のバルコニーなど、高いデザイン性が特徴です。



▲ 本町橋



▲ 指定書

9. 御堂筋の移管に伴う淀屋橋・大江橋・道頓堀橋の引継

これまで国の管理となっていた御堂筋が、平成 24 年 4 月 1 日より大阪市に移管されたことから、淀屋橋・大江橋・道頓堀橋の 3 橋が、新たに大阪市管理の橋梁となりました。淀屋橋は、庁舎を挟んで堂島川に架かる大江橋と共に、昭和 10 年に橋が完成しました。平成 20 年には、両橋ともに、国の重要文化財に指定されています。道頓堀橋は、43.6m という市内でも広い幅員を持つ橋梁の 1 つで、昭和 11 年に完成しました。



▲ 淀屋橋



▲ 大江橋



▲ 道頓堀橋



◇vol.3 大黒橋（だいこくばし）◇

大黒橋は、古くは木津の大黒神社への参道の一部となっていました。江戸時代は、橋長 42.7m、幅員 2.4m の木橋だったようです。明治になっても木橋のままでしたが、昭和 5 年に鉄筋コンクリート橋に架替えられ、上流側には道頓堀川の浄化目的に可動堰が併設されました。その後、施設の老朽化や道頓堀川水辺整備事業の整備に併せ、大黒橋は架替、可動堰は撤去することとなりました。

新しい大黒橋は橋長 30.0m、幅員 11.8m で両側の橋台と上部工とが一体となった「ポータルラーメン」というあまり例のない橋梁形式が採用されました。このような橋梁形式を採用したのは、架替においては、橋下の航路空間を確保する必要があったためでした。また、橋上には緑花模様の華やかな壁高欄や樹木を表現した照明柱など、景観にも配慮した整備となっています。側面には御影石を装飾し、架替前のアーチ橋の重厚感ある雰囲気演出することとしています。

新橋は、平成 24 年 4 月 27 日より、通行が可能になっています。



▲ 架替前の大黒橋と可動堰



▲ 完成後の大黒橋（側面部）